

0小 K先生のあたりまえ

その①「創意工夫をかき立て、気付きを生かす」

何かに使えそうという視点で、材料になりそうなものを常日頃から集めている。今年担任している1年生では、「こうさくたからばこ」として、材料を置く場所を教室脇に設けた。また、職員室にも「工作の材料を集めています」と書いた箱を用意している。周囲に呼び掛けると、プリンのカップや緩衝材のプチプチ、メロンの緩衝ネットなどありとあらゆるものが集まり、一見ゴミになるであろう物も、輝く素材に見える。



工作の授業では、事前に数種類のパーツを作っておき、なかなか制作活動を始められない子どもに、準備したパーツを見せながら相談に乗ることがある。素材を活かしたパーツやその組み合わせは、子どもがイメージをもったり発想を広げたりするきっかけとなる支援の一つになっている。



このように、常日頃から「何かに使えそう」という視点をもって材料を集めるなど、子どもたちがアイデアをかき立てられるような働きかけを心掛けたい。

その②「タブレット端末の活用を評価へ生かす」

タブレット端末には、作品の大小や立体と平面に関係なく保存し、簡単に記録できるという扱いやすさがある。そこで、子どもには、タブレットにファイルを作って自分の作品を保存させたり、鑑賞活動の中で気に入った作品や参考になりたい作品も画像にして保存させたりしている。撮りためた作品を後になって見ることができるので、自分の成長を振り返る手立ての一つになる。また、必要なときに見てヒントを得ることで、技術の向上に役立てることも可能だ。

教師は、画像による作品の記録を評価に役立てている。子どもの様子や途中の工夫などを画像にして記録することで、結果だけでなく子どもの思考の過程を見取り、評価に生かすこともできる。もちろん、完成後に児童から届いた作品の画像から、時間に左右されることなく評価することもできる。

今年は1年生を担当しているので、子どもたちの作品を画像として残していき、小学校6年間の作品アルバム作成を目指したいと考えている。